

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

— 基調講演 —

「豪華客船によるクルーズの魅力」



商船三井客船株式会社営業部次長 小出 文隆氏

皆様、こんにちは。

まずは、このような盛大な会に私をお呼びいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまご紹介いただきました商船三井客船株式会社、にっぽん丸を所有しております船会社でございます。企画を担当しております小出と申します。どうぞよろしく願いいたします。

改めましてお話をさせていただきます。「豪華客船によるクルーズの魅力」という題で、ただいまから30分、お時間をちょうだいいたしましてお話をさせていただこうと思います。

先ほどから皆様の中でお話がありました、港湾のクルーズ客船を誘致しての活用ですとか効果、このあたりにつきましては後ほどのパネルディスカッションのお席で主にお話をさせていただきます。私のほうからの30分は、前半は「クルーズ、どんなものなの?」「どういうふうにつくるの?」という企画サイドから必要なアイテムを数点ご紹介させていただきながら、現在のクルーズの業界の現状ですとかそのようなお話をまず前半させていただきます。後半は、お集まりの皆様がクルーズの中身、内容がどんなものなの分かるような写真をご用意してまいりましたので、2部構成でのお話とさせていただきます。

まず「クルーズ、どんなものなの?」という話の前に寄港地の概念ということで、少々難しいお話から入らせていただきます。

実は、こちらにありますように、寄港地というのは2つ意味合いがございます。一つは発着地としての寄港地と、それからもう一つは観光地としての寄港地ということで、2つの側からの港の側面がクルーズ船の場合にはございます。

発着地としての寄港地の条件としては、上下船の利便性ですとか交通手段の整備、それからターミ

ナル等の機能の問題などがポイントとして挙げられます。

片や右側、観光地としての寄港地ということにつきましては、周辺を含む観光資源、それからそれを使ってのツアーですとかイベント、こういうものがご準備できるところを、我々は観光地としての寄港地として選定をさせていただいております。

そんな中で、クルーズを構成するもの、どういうことを考えながら我々、例えば輪島の港に船を寄せさせていただこうというふうを考えるかと申しますと、このように数点ございます。

まずは日程、それから船内の施設でどういうふうに遊んでいただけるか、それからお食事、イベント、ツアー、それから今お話がありました寄港地、エリア、ルートと。この中の幾つかのアイテムのうちの1つが寄港地として挙げられてまいります。

日程につきましては、例えば、どの季節にこちらに伺ったらいいかなとか、こちらの港ですと、なかなか冬場は海が荒れますのでお伺いすることができません。そんなようなことを考えると、やはり日程の選定が非常に重要になってまいります。

それから、どうやってここまで来るかと。日本列島なかなか長うございますので、琵琶湖のところからまっすぐ日本海側に船を持ってくることはできません。そうすると、ぐるっと北から回るかぐるっと西から回るかということで、その途中でどういうコースを通ってくるかと、これも非常に大事なクルーズを構成する要素でございます。

それから、今、この寄港地の選定の中で出てくる観光資源、ツアー、イベント、それから歓迎行事という、これひとつ皆様ぜひ覚えていただきたいんですけども、これにつきましては皆様のお力添えが大変重要になってまいりまして、私どもがお連れしたお客様がこちらにお伺いして、やっぱり楽しんでいただいて、また来たいと言っていたかような、そんな状況をつくっていただきますと、やはりクルーズ船というのは港にたくさん寄るようなことができるようになります。



それから、あとは誘致活動と。先ほど市長さんからお話がありましたけれども、やはり積極的な誘致の活動を頂戴すると我々も安心しての寄港が可能となると。こういう要素もございます。

それから、その寄港地に伴ってのツアー、これは例えばこちらでしたら朝市ですとか、いろいろな観光のコンテンツをお持ちになっています。こちらをどのようにお客様にご案内してご紹介するかということがポイントでございます。ただ、その中で季節、シーズナリティですとかお祭りですとか、あとは地域に根付いた食、文化、伝統、自然と景観、これは通常のサイトシーイングの部分なんですけれども、こういうものを混ぜ合わせて寄港地の選定がずいぶん大きく影響を受けるということでございます。

それから、船にはいろいろな設備がございます。後ほどご案内いたしますけれども、船内でいろいろなイベント、催し物をやっております。そういうエンターテナー、どういうチョイスをするのか。こちらの土地にゆかりの方をご案内して、こちらの文化とか伝統的なものを見せていただく。そういうようなことも船内では実施しております。

あと、私ども一番得意としておりますのはお食事でございます、後ほどお食事の、写真だけなんですけれどもご覧頂いて、残念ながら味ですとか、においですとかは出ないんですけれども、見ていただこうと思います。クルーズの一番の楽しみは、またこのお食事というものがございます。

それから、船には公室と客室という2つのカテゴリーがございます、こちらの2つを快適に過ごしていただくというのがクルーズ船の大きな特徴でございます。

このようなクルーズを構成する要素を混ぜ合わせて私どもが企画をいたしまして、お客様を集めて各港へお連れするというのがクルーズの実際の姿でございます。今、映像を見ていただいていますのは、東北夏祭のクルーズということで、先ほど挙げた中での日程ですとかお祭り文化ですとか、そういうアイテムを幾つか組み合わせて、毎年実施している商品の一つでございます。

それから、もうちょっとスケールの大きな話。クルーズってどんなものがあるんですかという質問の中で、今は国内のお祭りのクルーズを一つご紹介させていただいたんですけれども、これは今年終わったばかりなんです、南米と南洋のクルーズ。実は、この船、世界一周ぐるっと100日行ってまいります。

このような形で太平洋をぐるっと回って、イースター島から南米を通って、グアヤキルというところから、これはガラパゴスのほうにもツアーで遊びに行けて、ハワイに寄って帰ってくると。こんなようなものも先ほどのクルーズを構成する要素の幾つかをあわせると企画ができるということでございます。

クルーズの企画がどのようになされるかというお話、それから実際にどのようなクルーズがあるのかという2点を今早速でご紹介させていただきました。

続いては、世界のクルーズのエリアということでちょっとスケールを大きく話を見てみますと、これだけの各地でクルージングというのは今世界中展開をされております。

やはり、大きなマーケットとしましては、カリブ海、それから地中海、ヨーロッパ。全体の65%ぐらいを今占めておるとというのが実態でございます。

このような形のクルーズで、国内では私どもの会社を含めて約3社が実際に皆様、お客様を連れて運航しておるということになります。

それでは、その船の設備、実はどのようなものなんでしょうかということで、ちょっと細かいんですけれども、さくっと申し上げますと、洋上に浮かぶリゾートホテルと。豪華客船と言うのはちょっと気恥ずかしいんですけれども、ホテルが一つ丸々ぽこっと海に浮かんで、一晩たつと違う場所に行っているというのがクルーズ船の一つの大きな特徴だと思います。

左の上から簡単に設備のご紹介をさせていただきますが、ダイニングルームがございます。それから右上、プール。それから左の下、これがラウンジ、ここではお茶をいつでも飲んで、皆さん談笑していただくようなことができます。それから右下がメインのバー。船の前の部分にあるんですけれども、景色を見ながらお酒をいただけるようになっております。

左上、ショップ、それから右になりますけれども、海を見ながらお風呂に入ることもできます。大浴場がございます。左の下、これがネイルサロンとカジノコーナー。日本の船なので、実際にお金をかけて遊ぶということではなくて、カジノゲームとして、こちらは大人の社交場の雰囲気を楽しんでいただくという場所がございます。

それから、こちらのホールほど立派ではないんですが、500名様が一週で収容できるメインのホー

ルというのが船にございます。左上でございます。それから図書室。それから左下がラウンジとバーです。先ほどのバーとはまた違うバーがございます。右下はシアターで、これも100席を超えるお席があります。講演会ですとか映画館ですとか、そういうことができるシアターがまた別途ございます。

こちらが客室の典型的なタイプのを4つ、ご紹介しております。

このような設備を持つクルーズはこだわった旅行、それからゆっくりとした自由な時間を過ごせる旅行ということで、以前は、実はかなり偏った方の楽しみということで、同じ方がずいぶんたくさん乗るというクルージングだったんですけれども、最近、かなり新しいお客様、新しい楽しみ方がふえてきております。これが最近の日本のクルーズの現状となっております。

このようなクルーズなんですが、実際にどのような船内で、生活ですとか、それからイベントですとかかなされているかといいますと、これはまず出航風景でございます。先ほどの歓迎行事のお話でございましたが、たくさんの方がお見送りに出ておられまして、この出航の風景も非常に乗船者の方々にとっては思い出に残る大切なワンシーンとなっております。

クルーズ、船であるがゆえに、通常、例えば飛行機ですとか車では行けないところ、例えば、日本では言いますと鳥島というところがありまして、ここは特別な鳥が生息しております。その鳥を見に行くには全く行き方がないわけです。これがクルーズ船ですと、非常に島の近くまで接航をして、鳥の生態ですとか、それから島の状況ですとか、そういうものをたっぷり堪能してご覧いただけると。こういうメリットがございます。

これはアラスカの氷河でございます。世界一周のクルーズにまいりますと、後半、ハワイかアラスカ、どちらかへ行くわけですけれども、このようにお部屋から出て本当に数歩、デッキに出ますと目の前に真っ白な氷河がそびえ立ってしまっていて、その中を粛々と船は進んでまいります。このような大自然との出会いというものもクルーズの魅力の大きなポイントでございます。

それから、なかなか橋の下から、海から橋を見上げるということがないと思います。これは横浜のベイブリッジを通過する本船、にっぽん丸なんですけれども、なかなか立派なもので、出航してから15分ぐらいでこの橋の下をくぐって、東京湾に出て、これからクルージングが始まっていくわけなんですけれども、船ならではの景色の一つと言えると思います。

これは、やはり横浜の停泊中、花火大会のクルーズというのがございまして、花火大会、皆様、大変お好きで、会場が常に混雑するんですけれども、船ですとゆったり、大体スペースとしてはどうでしょうか、2,000人ぐらいの方がお入りになるスペースが船全部であるんですけれども、400人ぐらいのお客様が思い思いの場所に陣取ってのんびりと花火を觀賞してから船を出航すると。こういうようなクルージングもございます。

これは1点、ヨーロッパのキール運河でございます。まさに陸を船が走っているように見えますけれども、ドイツを抜けてまいります小さな運河ですけれども、こちらの運河をにっぽん丸が航行します。これは船上から、やはりたっぷり半日ごらんいただける特別な風景の一つでございます。

同じく、パナマ、スエズという運河の写真が続いてまいります。

これは、歓迎行事でお見送りの一環なんですけれども、出航するとき、是非また来てくださいという形で、現地の方が赤いハンカチをご用意されて乗っているお客様と別れを惜しんでいるシーンでございます。船の出入港というのは非常にノスタルジックなもので、私も何回も経験しているんですけれども、やはり少し胸がきゅんとなるようなことがございます。そのようなシーンに、現地の方、寄港地の方々の温かいお見送りなどをいただきますと、本当に印象に残るいい旅だったなということ

を改めて思い返すことがございます。

これは操舵室の風景でございます。

これは船首部分に行かれていますお客様のお写真です。

これは入港のシーンでございます。入港のシーンは、陸から海を見るというのは通常のシチュエーションでもありますけれども、船のほうから、海のほうから皆様のお住まいを見るというのもなかなか違った形で非常に好評でございます。

ここからは船内。今まで見ていただきましたのは、船に乗ったらどんな景色が見れるの、どんなシーンがあるのというご紹介でしたけれども、ここからは船内、クルージングってどうなっているのというご案内です。

これが、Port&Starboard（ポート・アンド・スターボード）といいまして、1日1回から2回、お客様のお部屋に船内新聞が届きます。この船内新聞に、今日はイベントこんなことやっていますよ、御飯はこんなもんですよというような情報が載っておりますので、こちらを握りしめて1日船を楽しんでいただけます。

洋上では、お正月を迎えることもございます。おもちつきの大会ですとか、そんなこともイベントとして準備をします。これもキャプテンがみずからおもちをついて皆様に振る舞うシーンでございます。

これは、先ほどのホールでやっておりますイベント、ビッグバンドのコンサートの一環でございます。かなり通常のコンサートホールと違ひまして、お客様との距離が近いので、これを本当に存分にご堪能いただけるのも船の一つの特徴かと思ひます。

これは船長主催のウエルカムパーティーというのがございまして、カクテルパーティーをご乗船のお客様にご案内しているところでございます。

イベントとしてのダンス教室というものもございまして、こちらでソシアルダンスを楽しむ姿がこちらでございます。

これはカジノルームでございます。カジノゲームのコーナーでございます。

こちらがカルチャー教室でございます。お気づきだと思いますけれども、船にお乗りになると皆様、服装ですとか物すごくご心配されるんですが、今、絵をごらんいただいておりますとおあり、思い思いの格好でおしゃれを楽しんでいただいております。特に、先ほどのカクテルパーティーですとかフォーマルなご案内をするのがクルーズ中、何回かございますけれども、その場合でも私が着ておるような、男性でしたらスーツで、女性でしたら少しおしゃれなワンピースですとか、そういうものをご用意されれば、決してお洋服も御心配いただかなくて、気軽にクルーズを楽しんでいただくことができます。

これがネイルサロンでございます。

バーのシーンでございます。

先ほどちょっとご紹介しました食のにつぼん丸ということで、私ども、実は食事を一番の誇りとしております船でございます。調理長が一生懸命考えまして、世界一周の場合ですと、同じメニューは2度出さないということを自負して、お客様が毎日毎日召し上がっていただきますお料理を、工夫を懲らして、腕によりをかけてご用意させていただいております。

実は、新しい絵が出てまいりました。

先ほどまでご覧いただいていたのは、私どもにつぼん丸、この10月で一たん営業航海を終了いたしまして、来年3月まで大改装に入ります。この新しくなったにつぼん丸で、この輪島の港にお

伺いする予定でおります。船内を改装されて、新しい施設、新しい客室となってまいりますので、新しいダイニング、いろんなものが改装されて、我々今標榜しているものは、スモール・アンド・ラグジュアリーというものを目指して新しいにつぼん丸に改装しております。この新しくなった船で、ぜひ皆様のお顔をもう一度見ることができて、お目にかかることができるように、一生懸命また企画をしておりますので、ご支援をどうぞよろしく願いいたします。

私のほうからのご案内は、クルーズ、構成する要素は何ですかということ、今のクルーズ、世界の状況はこうなっていますという簡単なお話と、実際に船で見える写真、シーンをご用意いたしまして、少し皆様が船に乗った気分になっていただけたらと思ってご用意をしてみました。

小さな船ですけども、どうぞ大船に乗った気持ちで私どものにつぼん丸、これからもご支援、どうぞよろしく願いいたします。

本日はこのような大変盛会な会にお呼びいただきまして、まことにありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。